

児童・生徒の現状・課題

本校の生徒は基本的な生活習慣は概ね身に付いている。学習において、自ら課題を見つけ計画を立てて取り組み、振り返りを通して学びを積み重ねていくといった自己調整力には課題がある。

**学び続ける力を育むための重点目標**

○各教科や総合的な学習の時間での個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図る活動を推進し、生徒が自ら課題を見つけ、計画を立てて取り組み、振り返りを通して学びを積み重ねる力を育成する。

**具体的な手だて①見通す場面**

○授業の導入時に学習課題や本時の目標を明確にすることで見通しをもたせる。

具体的な手だて②選択する場面

○協働的な学びの中で、役割や方法を生徒同士で相談・検討し、決定する機会を設ける。
○ICT を活用し、調べ方・まとめ方・発表方法を多様化させる。

具体的な手だて③振り返る場面

○学習課題や目標に対して、理解度や達成度を自己評価させる。
○授業の振り返り時に、次に生かす学びを生徒自身の言葉で記述する。

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

○総合的な学習の時間における探究活動を授業改善のモデルケースとして位置付け、主体的・対話的で深い学びを具体的・実践的に体現させる。また、学習課題の設定、計画立案、協働学習、成果発表、振り返りの流れを校内で共有することにより、各教科の授業へ還元する。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	77%	85%	
②ICT を積極的に活用している。	75%	85%	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	74%	80%	
②教科と生徒指導の一体化させた授業をおこなっている。	78%	80%	

総括(5月)

生徒の基本的な生活習慣を基盤とし、自らの課題を確認し、見通しをもって、計画して取り組み、振り返りながら学びを積み重ねる自己調整力の育成を一層重視する。そのために、各教科や総合的な学習の時間で「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実践を授業改革の核とし、校内研修での実践共有を通して各教科へ還元し、スタンダード化する。

総括(1月)